

平成 26 年度第 4 回

函館市榎法華地域審議会会議録

(平成 27 年 3 月 24 日)

函館市榎法華支所

平成 26 年度第 4 回函館市榎法華地域審議会会議録

開催日時	平成 27 年 3 月 24 日 (火) 16 時 00 分～17 時 15 分		
開催場所	函館市榎法華支所 旧議場		
議 題	1 前回の意見等の集約結果と取組状況について 2 平成 27 年度地域別事業計画について 3 平成 27 年度地域審議会開催スケジュール (案) について 4 地域振興全般に関する意見交換 5 その他		
資 料	資料 1 平成 26 年度第 2 回函館市榎法華地域審議会 意見・要望等に対する取組状況 資料 2 地域別事業計画 (平成 27 年度) 資料 3 平成 27 年度地域審議会開催スケジュール 資料 4 函館市生活交通ネットワーク計画について 資料 5 民間事業者による地熱発電事業計画について (恵山周辺地域)		
出席委員	◎木 下 恵 徳 委員 ○北 村 和 彦 委員 亀 沢 正 史 委員 川 口 英 孝 委員 越 崎 賢 弥 委員 五ノ井 孝 司 委員 佐々木 真 弓 委員 竹 田 ノブ子 委員 長 崎 賢 一 委員 中 村 元 勝 委員 三 島 静 香 委員 (◎会長 ○副会長) (計 11 名)		
欠席委員	岡 山 弘 一 委員 小 野 加奈子 委員 小 市 光 子 委員 中 村 麻 友 委員 (計 4 名)		
事務局出席者の職 氏 名	函館市榎法華支所 支所長 山 田 隆 嗣 地域振興課長 川 口 祐 二 市民福祉課長 越 崎 重 平 産業建設課長 平 沢 浩 樹 地域振興課主任主事 金 澤 良 一 地域振興課主任主事 横 道 美 則 函館市教育委員会 榎法華教育事務所長 山 崎 弘 之 企画部 計画推進室政策推進課主査 長谷山 裕 一 計画推進室計画調整課主事 1 級 江 藤 彰 洋 経済部 工業振興課長 干 場 俊 雄 工業振興課主査 川 口 秀 一 工業振興課主任主事 清 藤 靖 朗 (計 12 名)		
その他	傍聴者 (計 0 名) 報道機関 函館新聞社 (計 1 社)		

○事務局 開会にあたり、本審議会会長から挨拶を申し上げる。

○木下会長 平成 26 年度第 4 回目の地域審議会の開会にあたり、一言挨拶を申し上げる。委員の皆様においては、大変お忙しい中、出席いただき、お礼申し上げます。本日の地域審議会の議題は、「前回の意見等の集約結果と取組状況について」、「平成 27 年度地域別事業計画について」、「平成 27 年度地域審議会開催スケジュールについて」、「地域振興全般に関する意見交換」が主な内容となっている。

また、「その他」において、企画部から「函館市生活交通ネットワーク計画について」、経済部から「民間事業者による地熱発電事業計画について」の説明があるので、よろしく願います。委員の皆様の忌憚のない意見、提言等をいただきながら進めたいので、よろしく願います。

○事務局 続いて、榎法華支所長から挨拶を申し上げる。

○山田支所長 委員の皆様においては、年度末の大変忙しい中、集まっただき、お礼申し上げます。昨年は、2月に大雪が降り大変苦労したが、今年は、割合穏やかな冬で、なによりであったと思っている。

さて、今年は、来年 3 月の北海道新幹線開業に向けて、まちづくりの成果が見えてくる年ではないかと思っている。8 月には、函館アリーナや日吉のフットボールパークが完成し、函館駅前地区や本町地区の再開発ビルもその姿を見せ始めると思っている。私は、街も新陳代謝を繰り返さなければ元気でいられないと思っており、函館アリーナや再開発ビルが新しくできることによって、街に賑わいが戻り、北海道新幹線を利用して函館に来る観光客が加わることにより、街が活性化すると確信している。

さらに、新幹線開業効果が旧函館市に止まることなく、榎法華地区をはじめ東部 4 地域にも行き渡るよう、今後も地域の魅力向上と情報発信に努めたいと考えている。本日は、平成 27 年度予算の中で榎法華地区に関わる事業計画について担当課長から報告する予定となっているので、よろしく願います。

○事務局 ここで、出席委員の報告をする。出席者 11 人、欠席者 4 人で、委員の半数以上が出席しているので、地域審議会の設置に関する規程第 8 条第 3 項の規定により、会議が成立していることを報告する。なお、岡山委員、小野委員、小市委員、中村麻友委員については、本日欠席となっている。これからの進行については、地域審議会の設置に関する規程第 8 条第 2 項の規定により、会長が会議の議長を務めることになっている。

○木下議長 ただ今から平成 26 年度第 4 回函館市榎法華地域審議会を開催する。議題 1「前回の意見等の集約結果と取組状況について」事務局から報告願う。質疑等については、全ての報告が終わってから一括で受ける。

○川口課長 平成 26 年度第 3 回地域審議会において、委員から出された意見・要望等に対する取組状況について報告する。資料 1 のとおり、2 点意見・要望をいただいている。

1 点目。北村委員から「榎法華高齢者福祉総合センターの職員確保について、職員が足りないと聞いているが、人員の確保はしっかりされているのか。」という質問をいただいた。

当該施設の管理運営は、指定管理者である函館市社会福祉協議会が行っており、昨年、介護職員の欠員が生じたが、榎法華や恵山・南茅部地区を中心に介護職員の確保がされ、現状では、配置基準を満たしている。

今後の施設の見直しによる人員確保については、現在の人員がそのまま維持されれば、特に問題が生じないと考えている。

しかし、人材確保については、施設運営に大きな影響を及ぼすことから、支所としても指定管理者に対し、介護職員などの人材確保を図るため、働きやすい環境づくりなどを指導していきたいと考えている。

2点目。亀沢委員から「子ども審議会の開催について、平成21年度第3回の地域審議会で提案をして、その後、学校側の日程が取れなくて開催できないことは聞いたが、それ以降何か動きはあるか。」という質問をいただいた。これについては、本市では、こうした場で子どもから出された意見・提案等を市政等に反映させる仕組みが整っていないため、子どもたちの意見・提案等を市政やまちづくりに生かすことが難しい状況にある。

他方、本市では、子ども条例制定に向けて準備を進めており、この条例の中で子どもの意見表明の機会など、子どもの意見等を市政に反映させることができる具体的な規定が整備された段階で、子ども議会の動きも見極めながら、開催の是非について検討する必要があると考えている。

○木下議長 ただ今の報告について、何か質疑等があればお願いします。

(なし)

次の議題2「平成27年度地域別事業計画について」事務局から説明願う。

○川口課長 平成27年度地域別事業計画について資料2にもとづき、産業建設課、市民福祉課、教育事務所、地域振興課の順で各担当課長から説明する。

○平沢課長 産業建設課関連の平成27年度の事業計画について説明する。資料2の1ページの「ウニの深浅移植放流事業」であるが、例年同様、平成27年度においても、漁業協同組合の事業として行われるウニの深浅移植事業に対して補助金を支出する。また、来年度から新たに「ナマコの種苗放流事業」を予定しており、初年度榎法華地域においては、2万個の種苗放流を予定している。

次に、「市有林の整備」であるが、これは、本庁農林水産部の事業として、絵紙山地区と新恵山地区の市有林の間伐等の整備を行う予定になっている。

次に、「ホテル恵風の改修事業」であるが、これは、平成25年度から3カ年をかけてホテル恵風の空調設備の改修工事を行っている。最終年の平成27年度は、主に1階部分の工事を予定している。

続いて、2ページ目。「矢尻小川改修事業」である。これについても平成25年度から実施をしている。本庁土木部の事業として矢尻小川の水量の分散を図るための工事を行っている。平成27年度は、3年目の工事ということで掲載をしている。

次に、「榎法華港の改修事業」である。平成27年度も引き続き越波対策としての東防波護岸のエプロン拡幅工事ということで掲載をしている。

○越崎課長 市民福祉課関連の主な事業計画について説明する。3ページの「3. やさしさとぬくもりのあるまちづくり」の(3)高齢者福祉の推進のうち、その他関連事業の推進で主な事業を2点掲載している。1点目は、「高齢者等の送迎サービス事業」である。本事業は、移動手段のない1人暮らしの高齢者および高齢者世帯の方、心身障害者世帯の方など何らかの理由により歩行の困難な方を対象に、通院等の送迎サービスを函館市社会福祉協議会に業務委託をし、地域限定で実施している事業である。平成27年度は、延べ利用者を2,200人ほど見込んでおり、予算額は、98万8千円を計上している。

2点目は、「高齢者温泉入浴優待事業」である。椴法華地域の65歳以上を対象に生きがいと健康増進を目的にホテル恵風で利用できる無料入浴券を1人あたり年間10枚発行し、高齢者の生きがい対策として実施している。平成27年度は、対象者が441人、予算額は112万円を計上している。

ほかにも、計画には記載していないが、「函館市椴法華高齢者福祉総合センターの管理委託事業」がある。本事業は、指定管理者制度を導入しているが、前回の審議会で情報提供したとおり、平成28年度に介護保険適用施設に転換することから、平成27年度の施設管理については、1年度限りで函館市社会福祉協議会に管理を委託する予定である。平成27年度予算については、2,444万3千円を計上している。

4ページの「5. 連携と交流によるまちづくり」の(1)の住民参加の推進のうち、その他関連事業の中の「椴法華地域パワーアップ事業」であるが、本事業については、平成24年度にパワーアップ検討会議が実施したアンケート調査などにもとづき、地域課題として除排雪などの負担軽減を望む声が数多くあったことから、それらへの対策を平成26年度に引き続き、平成27年度も予算化し、地域限定のモデル事業として実施する。なお、実施にあたっては、地域の町内会と連携して取り組む予定である。

○山崎所長 平成27年度椴法華教育事務所所管の事業計画について説明する。4ページの「4. いきいきと学び地域文化を育むまちづくり」の欄にふれあい大運動会事業ほかと記載しているが、その事業内容としては、まず、社会教育事業関係では、体験教室事業として「陶芸教室」、高齢者ふれあいいきいき学級事業として「健康講座」と「文化伝承講座」、椴法華、戸井、恵山の小中学生を対象とした「新春書き初め会事業」を予定している。

次に、社会体育事業関係では、健康推進事業として「恵山登山」、スポーツ普及事業としての「4地区交流パークゴルフ大会」や「椴法華ふれあい大運動会事業」などを予定している。

次に、同ページの「5. 連携と交流によるまちづくり」の欄に記載している「友好地域子ども交流会事業」であるが、青森県風間浦村と毎年交互に訪問し、交流を深めており、平成27年度は、函館市内での開催を予定している。

○川口課長 地域振興課に関する事業について説明する。2ページの「2. 安心して快適な生活環境を充実させるまちづくり」の(2)消防、防災、生活安全の充実のその他の関連事業の推進の「防災無線システム経費」は、防災行政無線の維持管理に係る経費で、予算183万8千円を計上している。(3)交通情報ネットワークの形成のその他の関連事業の推進の「地域内交通確保対策事業」は、地域福祉バスの運行経費で予算21万9千円を計上している。

続いて、(5)生活環境の整備充実の水道の整備の欄である。「浄水施設整備(簡易水道)」との記載があるが、これは企業局の事業で、椴法華浄水場の電気計装設備の更新に関わる経費で6,210万円が計上されている。

○木下議長 ただ今の説明について、何か質疑・意見等があればお願いします。

○北村委員 平成26年度の地域パワーアップ事業の具体的な行動、実績がわかれば教えてほしい。

○越崎課長 具体的な実績は、地域内の高齢者宅の草刈りおよび枝払いは、道路も含めて4回実施している。除排雪に関しては、高齢者の世帯を中心に55世帯実施している。金額的には当初予算で35万円ほどを予定していたが、今年は雪が少ないので、実績額としては、16万3千円ほどになる見込みで、最終的には18万円ほど残るため、これに関しては、精算して委託先から返していただく。

○木下議長 ほかにないか。

○川口委員 ナマコの種苗放流事業について、数は2万個で、予算額はいくらか。

○平沢課長 あくまでも漁協の主体事業ということで、その主体事業の金額だと、ナマコが108万円、ウニが895万3千2百円ということで、それぞれ30%、50%の補助金を出している。

○木下議長 ほかにないか。

(なし)

次の議題3「平成27年度榎法華地域審議会の開催スケジュール(案)について」、事務局から説明願う。

○川口課長 平成27年度地域審議会開催スケジュール(案)について説明する。資料3のとおり、平成27年度は、7月・10月・3月の3回の開催を予定している。主な内容としては、7月には「平成26年度事業実績報告」を、10月には「平成28年度事業計画(案)」についてご審議いただき、3月には「平成28年度事業計画」について報告させていただく。このほか、「意見等の集約結果と取組状況」と「地域振興全般に関する意見交換」については、毎回の議題とさせていただく。

なお、これは、4支所共通の基本的なスケジュールであり、榎法華支所独自の協議事項等がある場合は、その都度会議の議題にさせていただく。

○木下議長 ただ今の説明についての質疑・意見等があればお願いします。

(なし)

次の議題4「地域振興全般に関する意見交換」で、地域振興に関し何か意見等があればお願いします。

○長崎委員 社会福祉協議会の除雪について、これは何回かやっているか。今まで何年間かデータがあるか。

○越崎課長 社会福祉協議会が実施している除雪に関しては、行政の事業であり、地域から申込みしていただいて、戸井にある地域包括支援センターに依頼をする。地域包括支援センターが全ての調整をして登録した方の要望に応じて、社会福祉協議会に除雪を依頼するという仕組みになっている。それらの実績に関しては、申込みは、30件くらいあり、実際に除雪をしているのは、年に2、3件程度と記憶している。

○長崎委員 私が聞いたところによると、何年か前から1回も来ていないというのだけれども。

○越崎課長 実際に10センチ以上雪が降った場合に行うなど色々ルールがあるし、来ないというよりも、例えば、登録した方が除雪してほしいときには、地域包括支援センターに連絡をする必要があるが、その連絡をしてないのではないかと思う。去年も今年も手続きをしてくださいということで、対象者には、支所独自でチラシを配布しているが、教えていただければ、その方に直接説明をしたい。

○北村委員 前日も言ったと思うが、除雪についてのチラシが回覧板で配られたが、中身が全然わ

からなかった。事前申請制で、それから色々な段階を踏んで除雪するということだが、雪がたくさん降ったときの優先順位や人員が少ないときの対応はどうなっているのかということもわからなかったし、高齢の方が、チラシが来たからといってその手続きができるのか。今年たまたま雪がなかったから良かったものの、去年並みに雪が降ったら、大変なことになったと思う。

であるから、文字だけの説明ではなくて、利用の流れをわかりやすく図示したものを作るか、町内会の皆さんは、独居老人だとか地域の方をわかっているのだから、各町内会に依頼して、各家庭への訪問説明や代行申請してもらおうなど、周知や説明の方法を工夫しないとせっかくの良い事業なのにもったいないと思う。

○木下議長 私は、社会福祉協議会の理事をやっているが、社会福祉協議会の会議では、きちんとやっているとしか報告されていない。そういう状態にあることが報告されていないし、審議をすることがないので、今回の質問も含めて提案、質問等をしたいと思う。

確かに手続きは煩雑で高齢の方には無理な状況もあるので、積極的に聞き取りの上で、全部準備してあげて、できるだけみんながわかるような説明をするように提案しようと思っている。次回の審議会の時に取組状況を説明させていただきたいと思う。ほかにないか。

○長崎委員 ホテル恵風について、風呂に入っても体が温まらないから風邪をひくという意見が結構多いので、温泉の温度や成分に問題はないか。

○北村委員 その前段として、その事実というか、利用者のその声は、ホテル恵風の経営者なり従業員が知っているのか。知っていて対応しないのか、もっと悪くてそれすら知らないのか。

○越崎課長 源泉が2箇所あり、1つは、ホテル恵風の上の方から、もう1つは、水無海浜温泉から上げている。2つとも温度が60℃近くあって熱いから水で少し温度を下げて調整をしている。温度的には間違いなくある。露天風呂に関しては、だいたい42℃くらいに設定しているが、外気温や風の影響を受けて少し温度が下がることもある。たまたまそういう時に皆さんが入って、ぬるいという話をされていると思う。成分については2つの温泉分析表が貼られていると思う。

○木下議長 ほかにないか。

○長崎委員 ホテル恵風の売却の話が耳に入っているが、本当か。

○山田支所長 ホテル恵風の今後の方向性については、去年の3月に民営化を検討していくことで話をし、今は検討中である。色々動きはあるが、現時点で明確に地域の方に説明出来る状況になっていないので、改めて明確になった段階で地域審議会でも説明したいと思っている。

○木下議長 ほかにないか。

○北村委員 パワーアップ事業について、草刈りだとか枝払い、除排雪も結構であるが、それらは、予算で何とかなるものであって、ワーキングチームに入った者の認識とすると、今までになかったもの、例えば、旧市内に通学する高校生のために榎法華から古部または日ノ浜までの間のバスの手当を独自でできないかとか、榎法華発の特産物を作っていけないかとか、そういう未来志向のものだったはずなのに、これならパワーアップという名前はいらぬのではないか。あの燃えたような議論を交わしたものが、草刈り、枝払い、除雪になったが、それは違うと思う。パワーアップとは、子どもたちに夢を見せるような、ホテル恵風から特産品を出して、子

どもたちがホテル恵風で働きたいという思いを持たせるためにこれからどうやっていくのか意見を出し合ったはずなのに、正直かなりがっかりしている。平成 27 年度は、全く違った視線ではなくて、原点に戻ったパワーアップの実施を期待する。

○木下議長 ほかにないか。

○川口委員 先ほど支所長が、新幹線が来たときの地域振興という話をしたが、新幹線が来たときに、パンフレットや案内状で配布出来るようなものが今はないような気がするが、いかがか。

○北村委員 楯法華地域審議会が単独ではなくて、各地域審議会代表者を募ってそこで広域で話をして、意見集約をして 1 つのものを作っていきような形を取らないと、今聞いても答えられないと思う。当然本庁を中心としたネットワークで、地域それぞれのニーズだとか要望を求められないのではないか。

○木下議長 地域限定の話ではなく、ほかの支所も協同で模索していただけるように、パンフレットなどを作るときはそういう点も考慮していただきたいと思う。

○平沢課長 来年、新幹線開業ということで、東部 4 地区と本庁観光課とで会議がもたれており、先日も会議を開いたが、今後、どういう方法が良いのか、会議の中で具体的に協議していきたいと思っている。

○北村委員 その会議は、地域審議会とか町内会とか地域の代表者は参加しているのか。

○平沢課長 今は市職員だけである。

○北村委員 地元の意見は地元に住んでいる人にしかわからないし、これは楯法華、戸井、恵山、南茅部それぞれ温度差があるので、その代表者を複数名入れて、地域の特色を生かしたものを作っていかなければ、グローバル化はできないと思う。

○木下議長 ほかにないか。

(なし)

次に、議題 5「その他」であるが、企画部と経済部からそれぞれ説明したい事項があるので、まずは、企画部から「函館市生活交通ネットワーク計画について」、続いて、経済部から「民間事業者による地熱発電事業計画について」説明する。

○長谷山主査 私から函館市生活交通ネットワーク計画について説明する。まず、乗降客数が年々減少の一途を辿っており、路線バスについては、20 年間で 3 分の 1 に乗降客数が減るなど、今後持続出来るのかという状況に至っている部分もあることから、今年の 3 月に、公共交通の再編なども喫緊の課題であるということで計画を作らせていただいた。その中で大きな構成として 4 つあるが、まずは、旧函館市地域の公共交通の再編案として、現在の路線が非常に複雑でわかりづらい状況にあることから、現在の路線を大きく見直して五稜郭や湯川、美原、函館駅前等々の交通拠点で乗り換えるシステムに大きく路線を再編し、そういった交通拠点になる五稜郭、湯川、美原地区もターミナル的な乗り換えの利便性に資するような拠点の整備をしていきたいと考えている。

また、これまで使われている磁気カードについて、今後は、ICカードを導入しながら利便

性を確保し、効率的な運行につなげていきたいと考えている。

次に、東部地区の公共交通の再編について、海岸線に沿っての1本道になるので、路線バスと同時に学校のバスとか、違う地域になるが、病院バスだとかが走っている。この路線バスは、全てが赤字路線となっており、国や道からの補助金を導入しながら、何とか運行している状況である。路線バスの運行経路や運賃については、榎法華地区は、函館エリアから遠いということで、何とか安くできないかという話も聞いている。運行ダイヤについても、本数はそれなりに走っている状況はあるけれども、旧市内の高校に通っていて、部活が終わった後に帰って来られない状況なども聞いているので、利便性の確保をする一方で、効率的な運行もしていかなないと、これからどんどん補助金も増えていき、乗降客数も減っている状況であるので、それとの兼ね合いを見ながら、新たに公共交通を考えていきたいと考えている。

また、地域福祉バスは、4つの地域にあり、それぞれ多く使われて、非常に喜ばれている状況も聞いているが、支所ごとでしか使えないので、共有化して効率的な運行が出来ないかということを見ながら検討していこうと考えている。

また、温泉バス、病院バスについては、こちらの地域にはないので割愛させていただくが、次の学校等の送迎バスについても、こちらではないので、ほかの地域では、学校の再編の動きを見据えて検討することで考えている。

あと、外出支援サービスについて、榎法華地区でもクリニック等への送迎については、これまで公共交通という枠組みで検討すべきだという話で進んでいたが、外出支援サービスについては、既存の交通機関が利用困難な方のための外出支援サービスで、公共交通で代われるわけではないので、外出支援サービスについては、別に検討するという考え方を示している。

今後このような形で進めていくために、来年度4月から地域の皆様と本格的な協議をしたいと思っており、私どもは、地域の実態をまだよくわからない状況なので、今後は支所とも話をしながら、どのような形で地域に入りながら進めていけるかについて協議させてもらって、来年1年間かけて何とか地域に持続可能な公共交通として残るような形で進めたいと思っている。

○干場課長 私からは、民間事業者による地熱発電事業計画について報告する。現在、恵山の周辺地域で地熱発電ができないかという検討が民間事業者により行われている。まだ検討段階で、決定ではないが、このような動きがあるとの情報提供である。まず、事業計画等の概要であるが、地熱発電所の候補地となる実施場所は、現時点では恵山周辺とだけで具体的な場所はまだ決まっていない。これから現地での調査を行い、その結果により決めていこうというものである。

次に、発電規模は、2～3メガワット程度の小規模のものを想定していると聞いており、仮に発電所ができた場合も敷地の広さが、おおよそコンビニ1軒分くらいと聞いている。ちなみに森町の地熱発電所は、50メガワット規模の施設でそれと比べても小規模である。

また、事業主体は、(株)レノバならびにデナジー(株)という東京の会社であるが、実質的には、レノバが中心に動いている状況である。実際に売電開始ができるようになるまでには、地熱の場合だと様々な調査や手続きがあって、最短でも5年はかかると見込まれている。

続いて、事業スケジュール案について、1年目から5年目以降ということで、順調にいった場合のスケジュール案を記載している。1年目のところに地表調査と記載しているが、この調査では穴を掘ることはなく、地表からセンサーなどを使って地下の構造を調べるもので、地下のどのあたりに発電に適した熱源があるのかを調べる調査である。この地表調査の結果に基づき、発電所の候補地をある程度決めた上で行うのが、次の地下探査になる。道の許可を受けた上で実際に候補地において試験用の穴を掘って実際に噴き出してくる蒸気の色や温度が発電に適したものであるかどうかを調査する内容となっている。こうした調査を経て、事業者の方で経営

的に成り立つという判断をして、道の許可や地域の理解が得られると、いよいよ発電所の建設工事に入ることになり、完成後発電が始まることになる。発電所の完成までには、地表調査や地下探査、建設工事といった何段階かのステップがあるが、これらのステップに進むにあたり、事業者は、事前に地域の理解を得ることとされている。現在、恵山の地熱発電の進捗状況がどこにあるかという、これから地表調査に入りたいという段階である。昨年暮れに地域の関係者を対象にして事業者による説明会が実施されたところで、当日出席出来なかった方々もいたことから、その後も戸別訪問等によって説明が継続されている。

最後に、地域への波及効果について、事業者は、地熱事業をこの地域でやらせていただくからには何らかの形で地域に貢献していきたいと話しており、その内容については、今後の検討事項となっている。

○木下議長 ただ今の説明に関し、何か質疑、意見等があればお願いします。先に公共交通ネットワークの方から行う。

○北村委員 交通ネットワークについて、朝、恵山から戸井にかけて同じ時間帯で函館バス、地域福祉バス、病院バス、学校送迎バスとすれ違う。制度目的に合致しないと走れないということだが、なぜ3本も4本も同じ時間帯に走るのか理解に苦しむ。制度目的を取り払って多目的に1本のバスで、何とかなるはずである。

それで今スリム化を図るのだろうけれども、スリム化を図る前に制度目的を全部取り払って、住民のためのバス1台をオンデマンドで走らせれば良い。

こういう再編があるのであれば、行政頼みではなくて我々も自立して、榎法華発のアイデアを何か発信していかないと利用する方がスリムになるだけなので、制度目的を取り払って地域住民のための足という目的設定でやったら、それがスリムだと思うのでよろしく願います。

○長谷山主査 榎法華地区に関しては、病院等の送迎バスや温泉等の送迎バスがないので、その部分の説明を省いた。恵山や戸井は、そういったバスが路線バスと同じところを走っているため、恵山や戸井の地域審議会では、無料のチケットでの路線バスへの乗り換えについて提案している。回数制限はあるかも知れないが、同じような時間に行けるという利便性があるから、そういうことも含めて支所ともやり取りを始めているところなので、いくつかのことをまとめながらと思っている。

今回の部分で学校等の送迎バスについては、学校の再編が落ち着いたら、路線バス化もしくは一体化して効率的にできるように考えていこうということで、今いただいた意見も踏まえて、榎法華地区を良い方にスリムというのをどのようにすれば良いかを検討させていただきたい。

○北村委員 この地域において1番悲しいのは、路線バスの本数が少なく、乗る人はもっと少ないという状況である。6時45分くらいに乗っているのは、せいぜい1~2人で、いくら補助事業といっても限界がある。であるならば、古部と日ノ浜に行くとも本数が走っているの、その間の榎法華・古部間、榎法華・日ノ浜間だけを何とかクリア出来れば良いだけの話で、これは地元からアイデアを発信して何とかしようという形でいけば私は乗り切れると思う。住民にとっての良いスリムな方向には期待しているので、よろしく願います。

○木下議長 次に、地熱発電の件で何か質疑等ないか。

○川口委員 地熱発電は、原子力エネルギーの代替えで、太陽光発電と一緒に国も進めているところで、内容としては非の打ち所がない感じだけでも、企業というのは倒産する可能性もある。

つぶれてしまうと廃墟が残ってそれを撤収出来ないことがあるので、負の遺産が景観を壊さないように、もし何かあったときにはそれを撤去するという形を整えた方が良いと思う。

○干場課長 まず、会社の信用度という部分では、100%倒産しないということはないかも知れないが、本業がプラスチックのリサイクル関係で売り上げも実績もあるので、その会社が次の展開で今の新エネルギーに着手しているということで、信用のある会社ではある。今、固定価格買い取り制度があり、事業が円滑にできるようにということで、国の政策的にも支援されている分野なので、それほど危険性があるとは認識していない。事業としてうまくいくと願っている状況である。

○亀沢委員 環境モニタリングについて、企業が作ったモニタリングを市の中にチェックする能力というスキルがあるか。それか第三者を入れてモニタリングをチェックするのか。そういう体制はできているのか。

○干場課長 ここで申し上げている環境モニタリングは、事業者側のモニタリングで、国の補助を受けながら行うスキームになっている。このモニタリングに関して、直接行政が検査をすることはないが、事業者の方でモニタリングの結果は当然公表が前提だと思っているし、そういった意味では白日の下にさらされるので、ある程度信用ができるものと思っている。

○亀沢委員 業者というのは、自分に都合の良い数字を出すので、それを誰か第三者が厳密にチェックする体制を是非整えてほしいと思う。

○干場課長 その辺も含めて、我々も結果については、きちんと見るように心がけたいと思う。

○木下議長 ほかにないか。

(なし)

それではこれで本日の議題は、各委員の協力のもと、全て終了した。

次回の開催時期は、7月を予定している。議題内容については、「前回の意見等の集約結果と取組状況について」、「平成26年度事業実績報告について」、「地域振興全般に関する意見交換」を考えている。日程も含め、正副会長に一任願いたいと思うが、よろしいか。

(はいの声)

以上で、平成26年度第4回函館市榎法華地域審議会を閉会する。

午後5時15分終了